

学会発表（所属については発表時のものを掲載した）

2013～2017年に広島市で分離された腸管出血性
大腸菌 O26:H11 (VT1 産生) 株の分子疫学的解析

千神彩香 青田達明 栗林智早
坂本 綾 松室信宏 石村勝之

第20回地域保健研究会(第1分科会)

2018. 2. 5 広島市

2013～2017年に分離された腸管出血性大腸菌 O26:H11 (VT1 産生) 株 22 事例 32 株について、PFGE 法及び MLVA 法 (7 座位) を用いて分子疫学的解析を実施した。複数の事例間で PFGE 法、MLVA 法共に一致したものの中には、疫学調査による関連性が不明なものもあったが、2017年に発生した2事例に関しては、疫学的関連性の可能性が認められた。分子疫学的解析結果は、疫学情報と照らし合わせて総合的に解釈することが重要であると言える。

ダニ媒介感染症の後方視的解析

藤井慶樹 則常浩太 八島加八*
山本美和子 松室信宏

第63回中国地区公衆衛生学会

2017. 8. 22 松江市

2012年から2015年までの期間に当所で検査を行った重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)、日本紅斑熱、つつが虫病等のダニ媒介感染症疑い事例について、患者調査票等を参考にして疫学情報を整理するとともに、患者から検出された病原体の遺伝子解析を行った。SFTS、日本紅斑熱は春から秋にかけて患者が発生しており、マダニの活動が活発な時期と一致していた。一方、つつが虫病は秋から初冬にかけて集中的に患者が発生していた。

市内における発生状況や侵淫している病原体の解析を今後も継続し、適切な情報提供と予防啓発を行うことが重要である。

*：環境局環境保全課

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌の検査状況
について(2017年)

青田達明 千神彩香 栗林智早
坂本 綾 松室信宏

第20回地域保健研究会(第1分科会)

2018. 2. 5 広島市

2017年4月以降、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌 (CRE) 感染症届出基準に合致し、収集が可能であった CRE 菌株 2 菌種 5 株について、カルバペネム耐性遺伝子の検出及びそのシーケンス解析を実施した。菌種の内訳は、*Escherichia coli* が 4 株、*Enterobacter cloacae* が 1 株であった。PCR 法による耐性遺伝子検出試験の結果、これら 5 株はいずれも IMP 型メタロ-β-ラクタマーゼ (MBL) 遺伝子を保有していることが判明した。検出した IMP 型 MBL 遺伝子について詳細なシーケンス解析を実施した。その結果、5 株が保有している IMP 型 MBL 遺伝子は、全て IMP-6 MBL 遺伝子であることが明らかとなった。